

令和7年度 第5回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和8年3月27日(金) 13:30~16:00
開催場所	市庁舎 17F 会議室
出席者	(委員) 小宮輝之委員長、間曾さちこ委員、佐渡友陽一委員、藤崎晴彦委員、儀賀良之委員
開催形態	非公開
議題	1 令和7年度第4回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 2 令和6年度事業評価報告書について 3 令和8年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程案について
報告	1 よこはま動物園ホッキョクグマの死亡について 2 その他
議事	<p>【議題1】 令和7年度第4回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録</p> <p>異議なし 確定</p> <p>【議題2】 令和6年度事業評価報告書について</p> <p>異議なし 確定</p> <p>【議題3】 令和8年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(事務局) 現時点案のため、今後変更する可能性もあることを了承いただきたい。 <p>異議なし 了承</p> <p>【報告1】 よこはま動物園ホッキョクグマの死亡について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで健康状態に問題はなかったのか。 <p>→(指定管理者) 日々のトレーニングにより無麻酔下で採血できるようになっていたため、事前に血液検査により健康状態を把握しており、十分な健康状態だったと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴーゴは社会的にかなり有名で、大阪の民間事業者から天王寺動物園が寄附いただいたもので、怒りを感じている方も多いと聞いている。 <p>そういった方々に技術的な弁解をしても、うまく伝わらないのではないかと思うが、どうか。</p> <p>→(事務局) 広聴等でも悲しみの声や様々なご意見が寄せられている。現時点で知り得ていることを包み隠さず公表すること、しっかり検証して、再発防止につなげることが、一番の要望だと受け止めている。今後、病理検査の結果なども、しっかり情報公開していく必要があると考えている。</p>

繁殖が妥当なのか、動物福祉に反していたのではないかという声もあり、丁寧に説明しなければならないと考えている。動物園の使命として、繁殖計画に則った繁殖と、根底にある動物福祉へ取組、これらをしっかり両立させなければならないと感じており、本市と指定管理者で、一緒に取り組んでいくべきだと考えている。

こういった点について、委員の皆様の知見の中で、ご指導をいただきたい。

- ・ゴゴは繁殖実績もあり、とても有名で人気のある個体。死亡の一報を知った直後から、X等には多くの情報が投稿されており、かなり攻撃的な投稿も多かった。

この年齢で移動が適切だったのか、JAZA 生物多様性委員会と十分に検証していただきたい。投稿には真偽不明のような情報や園長へのかなり攻撃的な投稿も多く見られ、一人の人の人生を奪うくらいの攻撃的な投稿もあり、施設の責任者だからといっても、そこまで言われるのか、と感じた。

- ・国内では、ホッキョクグマの麻酔下での採精は何例くらいあるのか？

→（指定管理者）国内の飼育下のホッキョクグマ 30 頭ぐらいおり、繁殖に適するオスのうち採精できていないオスはゴゴだけだったと聞いている。

- ・その中では、このような事態に至ったのは初めてで、それがゴゴだったということは非常に不幸なことだった。

- ・動物に麻酔をかけて処置をする際に、リスクがゼロではないことは仕方のないこと。博物館経営論的な視点では、コレクションマネジメント、つまり、生きている動物をどう扱うかという技術的なことがベースである。この点に関しては、指定管理者の専門性が高く、専門家として当然、技術的に可能な限りリスクを減らすことはやっているし、それは信頼するしかなく、今後も技術をできる限り高めることはお願いしたい。

- ・今回の問題は、そうした技術的な側面のことではなく、コミュニケーションマネジメントであり、市民感情をどう取り扱うか、ということだと考える。端的に言うと、「指定管理者は、動物を扱う技術だけでなく、横浜市の動物園において動物を扱うにふさわしい徳、倫理を備えた団体である」という信頼感を得られるかということ。そこを踏まえて、どのように市民感情と向き合って、信頼感を担保しうるかを考え、報道発表をしてほしい。

- ・リスクマネジメントにおいて、記者会見のタイミング、内容というのは非常に重要な問題。今回、記者会見をしていないが、横浜市としてどう考え、いつ「しない」と決めたのか。

→（事務局）一報を受けた時点でのリスクマネジメントが十分ではなかったと、今のご指摘を聞いて、改めて感じた。市役所の感覚としては、こういった事案や事故報告を行う場合には、記者会見をするのではなく、事実関係を正確にお伝えするという視点になる。今回もそういった視点で、この事例を取り扱った、というのが経緯。今後、報道発表含め、みなさまに事実をしっかりと伝えるのに適した手法を検討していきたい。

・一般的に、記者会見は情報が全て出そろってから1回でやるのがよく、情報が揃うまでは待つという段階があってもよい、という考え方がある。そういう意味では、今回の第2報、第3報を段階的に出したことが正解だったのかを検証し、同じやり方で第4報を出すことが正解なのかをきちんと検討すべき。

コミュニケーションマネジメントとは、感情と向き合うことであるので、科学的に物事と向き合い事実を包み隠さず出すだけでは足りない。これをきちんと認識したうえで、記者会見をやるのか、別の手段とするのかを、きちんと検討すべき。

→（事務局）第2報には、指定管理者とも調整し、園長からのメッセージを掲載した。今後の第4報に向けて、今いただいた意見をもとに、どういうコミュニケーションが良いのか、しっかりと考えていきたい。

・今回、ゴーゴが万が一死亡した場合に、情報発信をどうするかについて、事前に決めていなかった、という理解でよいか。

→（事務局）決めていなかった。

・動物の移動は、死のリスクがゼロになることはない。だから、万が一、死んでしまったときの対応を念頭に置いたうえで動くべきだと思う。それを全く想定せずに、事後的に対応せざるを得ない状況を作ったことは、リスクマネジメントの観点から、不適切だった、と言わざるを得ない。

・人気のある個体だったので、ショックを受けている人も多いただろうし、何も知らずに発表される情報だけ見ると、単なる事故ではなく、不適切な取り扱いがあったのでは、と見えてしまう。事故の経緯は技術的な面からもきちんとした説明が必要だが、だからこそ誤解を招くことも想定されるので、一般の方に理解してもらうのは難しいということも前提に、どのように受け止められるかを想像しながら説明しないと誤解をまねくだろうと思う。

・情報管理については事前の対応がしっかりできていれば、今こういう状態にはなっていないと思う。企業などでも、初手がどうだったかということで、その後の印象、社会的な評価が大きく変わる。

一般市民からすると、突然ゴーゴが死亡して、その後、段階的に発表資料が出てきて、その後写真展となると、こちらの表情が伝わらないので、「関係者は本当に悲しんでいるのか」、「血の通ったやりとりじゃない」という印象をおそらく受け、納得いかない感情が残ってしまうのではないかと。生き物を扱うところでは、感情で動く部分があるので、通常の事故以上に、感情面に対する対応が必要ではないか。

この後の対応では、起きたことと、その対応、原因というより、それに対して、自分たちがどう考えてきたのか、ということをもう少し伝わりやすくしてほしい。

・動物に限らず、備品・施設などで、事故があった場合などの、危機管理、初動や説明の手法などについての市のマニュアルはあるのか。

→ (事務局) 例えば公園でも事故があれば、管理瑕疵の有無に関わらず、記者発表をする。まずは事実関係をお知らせする。市の責任の有無が明確に伝えられる場合は、明確に伝える。例えば、警察の捜査中や被害者のプライバシーに関することがある場合には、報道のマニュアルに沿って発表の対応をしている。今回も、そうした事例を参考にしながらの対応だったが、人気のある動物の死亡ということで、市のマニュアルでは合わない部分があったということだと思う。事前のマネジメント不足はあるかもしれないが、指定管理者と連携を取りながら、一緒に対応していくことはできたと考えているし、今も対応は続いているので、今日いただいた意見も含めて、しっかり対応を考えていきたい。

- ・役所の危機管理はすぐに再発防止に行き過ぎ、ゼロリスクにしようとするが、動物を絶対に死なせない、ということはある程度あり得ないので、リスクをいかに保有するかということ。法的な責任を問われているのではなく、動物園の当事者の悲しみ、心が伝わる対応が求められている可能性が高い。報道が分かりやすい言葉で伝えてくれるので、報道関係者が納得できる場を作れるかも大切。通常の役所の危機管理とは少し違う、そうした視点で、コミュニケーションマネジメントを考えることが必要なのではと思う。

→ (事務局) 役所としては、動物に対する責任がある以上、「動物の死亡リスクはゼロにならない」「我々も悲しい」と言うことが、逆に言い訳に聞こえてしまうと考えていた。その中で、正確に事実関係を伝えるというのが、最初のコミュニケーションのスタートだった。今回新たな気付きをいただいたので、コミュニケーションとしてどういう手段が取れるかを、指定管理者と相談して、対応していきたい。

- ・今回の事案に限らず、動物を扱う以上、終末期の安楽殺のように、何らかの理由で、動物を死に至らしめなくてはならないこともある。今回の経験を踏まえ、そういった場合も含めて、きちんとコミュニケーションできるノウハウを、これから磨いていかなければいけない。
- ・この件は、横浜市民に限らず、全国的に問題になっていて、横浜の動物園の評判を落とすことにもつながる。横浜市民だけに説明すればよい、4報を出せばよい、というのではなく、もう少し真剣に対応した方がいいかなと思う。

【報告2】

その他

(シシオザル舎内逸走について指定管理者から説明)

- ・「OJTや研修をしっかりとやっています」とよく聞くが、動物園業界に長くいると、研修が盛んなところほど実は普段の管理がしっかりとできていない証拠のように感じることもある。やはり自分の目と手で扉の確認をするということに尽きる。自動的に締まる仕組み、のような対策はかえっていけない。なかなか解決策が難しいのは事実だが、ずいぶん続いてしまっている。

・今回の件では、すぐ後に、別のところでガイドの対応予定があったとあり、一般的に、イレギュラーなことが起こったり、直後に別の予定があったりすると、注意が散漫になり得る。人員配置や業務の組み立てにあまり余裕がないのかなという印象もあるが、もう少し工夫できないのか。

→ (指定管理者) 今回は、ガイドの予定があったことと、動物が小競り合いをしたという状況もあって、少し焦った部分があったと思う。そういう場合にはガイドに間に合わなくても、まずは安全に動物を収容する、目の前の動物のリスクに対応することが最優先であり、周囲に連絡して対応する、ということを改めて周知した。あわせて、基本的な飼育作業の徹底を、改めて注意喚起した。

・情報が整理されてこういう場に報告されていることは、リスクマネジメント上、ヒヤリ・ハットの共有という意味で重要であり、その点は評価したい。

ヒヤリ・ハットの共有の目的は重大インシデントを防ぐことだが、今回の事案は、最悪の場合こういった重大インシデントになり得たのかについては、どう評価しているか。

→ (指定管理者) 最悪の事態としては、構造的につながっている隣の獣舎に、別の職員が気づかずに出入りして、動物が舎外に出てしまう可能性や、その職員が負傷する可能性があった。シシオザルは大きくない動物なので今回は被害はなかったが、別の動物であれば今回の対応では済まないと思うので、重大な事故だという認識。

・今回は、職員の重篤な負傷・死亡といった重大インシデントには至らなかった、ヒヤリ・ハットの「ハット」だった。それをきちんと共有して、対応をしており、比較的きちんとリスクマネジメントされている事案ではあるが、再発防止に努めてほしい。

・今回の事案を受け、隣の獣舎との間に扉を付ける対応をしたとのことだが、動物逸走時に、まず連絡をすることの徹底が必要。逸走を知らずに別の職員が作業することで、園内逸走、下手すると園外逸走という重大インシデントが起こりうる。

・現場で何か問題が起きたときに、他の職員に連絡する手段や仕組みはあるのか。

→ (指定管理者) 職員が無線機を所持しており、無線機についている緊急時用のボタンも状況によっては使うことになっている。

・今回、担当職員はなぜ即座に連絡しないで、自分で対処してしまったのか、は重要な点だと思う。「対応する前に、まず連絡」というマインドセット的な話だが、そこについて、何か聞いているか。

→ (指定管理者) ガイドの時間があって焦っていたのと、飼育の担当者だったので、ある程度安全な距離感を把握していたこともあり、対処可能と思い込んでしまった。

・「問題に気付いたら、まず報告」ということの普段からの徹底はどの業務でも共通だと思う。

配布資料	資料 1 令和7年度第4回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録（案） 資料 2 令和6年度指定管理者事業評価報告書（案） 資料 3 令和8年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案 資料 4 ホッキョクグマ「ゴーゴ」の死亡について（第1報）～（第3報）